



## ■ 県高体連新人大会お疲れ様！！

～男子ソフトボール部 優勝おめでとう！！～  
～女子ソフトボール部 準優勝おめでとう！！～

10月31日、準決勝に進んだ男女ソフト部を全生徒（3年生は、希望者は居残りをして自学自習で頑張っていました）で応援しました。男女とも決勝に進み午後から男女同時刻の決勝戦でした。男子ソフト部は、5回コールドで勝利。力を存分に発揮できたと思います。女子ソフト部は、拮抗したゲーム展開でしたが、6回裏に追加点を許し残念ながら負けてしまいました。しかし、粘りを見せた良い試合だったと思います。

残りの部活の大会結果についても顧問の先生方から「生徒の成長が感じられた大会でした」等の報告がありました。

部活動の目標は試合での勝利にあると思いますが、目的は『成長すること』だと思います。常に『打って反省、打たれて感謝』の気持ちで、成長することを期待しています。

## ■ 学校説明会開催 10月19日(木)開催

中学生300名余、保護者34名、先生方10名に参加して頂きました。校長あいさつでは、「読高生は、文武両道、凡事徹底で頑張っており、目標設定し充実した高校生活を送っています」と紹介しました。自分が参加した頃を思い出し、またこれからの頑張りに繋げて欲しいと思います。



## ■ PTA進路研修会 10月26日(木)開催

講師：久米忠史先生（奨学金アドバイザー）

これからの少子高齢化や人工知能社会等の時代を生き抜くには『読解力、思考力、発見力、柔軟性』を身に付けることが大切であり、『読書習慣』のある人とならない人に分けられることや、採用担当者が求める能力として『コミュニケーション能力、主体性、チャレンジ精神、協調性、誠実性』などの紹介がありました。また、進学費用や生活費などの具体的な金額や、奨学金制度、奨学金返済の現状について、そして『進路は、目的意識をしっかりと持つことが大切である』ことを強調していました。そう思います。

## ■ 11月の行事

- |                                |                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 2日(木) 県高新人駅伝                   | 17日(金) インターシップ学習③<br>(1年：書類作成)    |
| 3日 文化の日・<br>ベネッセ記述模試1・2年       | 修学旅行生徒保護者説明会                      |
| 5日(日) 第2回英検                    | 20日(月) 服装容儀指導週間                   |
| 6日(月) インターシップ学習②<br>(1年：マッチング) | 21日(火) 期末考査①                      |
| 読書週間(～30日)                     | 22日(水) 期末考査②                      |
| 7日(火) 理科野外学習1年                 | 23日(木) 勤労感謝の日                     |
| 8日(水) 防災訓練                     | 24日(金) 期末考査③<br>学年修了写真(1年)        |
| 10日(金) 校内陸上大会                  | 27日(月) インターシップ<br>職員・生徒顔合わせ会      |
| 11日(土) 駿台マーク模試3年<br>PTA研修会     | 29日(木) 統一LHR:<br>(3学期役員選出・卒業式レコー) |
| 12日(日) 駿台マーク模試3年               |                                   |
| 16日(木) 新大学入試数学                 |                                   |

## ★本の紹介コーナー★

来週から読書週間。今回は、2冊のオススメ本の紹介です。

題名：日本語が亡びるとき  
著者：水村 美苗

本書は、国語とは何か、それはいかにして誕生したか。また、そこには翻訳という行為が重要な鍵となることを教えてくれる。

日本語について。明治政府初代の文部大臣になった森有礼は、「日本語をやめて英語を使うべきだ」、あの志賀直哉は「仏語を使うべきだ」と言ったとか。今は「常用漢字」といわれるが第二次世界大戦後、当時の政府は漢字の廃止を決定し当面使用される漢字として「当用漢字表」を定めたという。また、英語を第一公用語にする計画もあったようだ。驚いた。何かの都合で日本語が危うくなる。

そして、本書のタイトル。「法隆寺をとり壊して駐車場を作っても、日本文化や伝統は亡びない」とのある文化人の言葉に、「日本人はDNAによって日本人ではない」、また、「護られない言葉は亡びていった」という歴史的事実を示しながら筆者の指摘は鋭い。

文系進学希望者必読書。

題名：若き数学者のアメリカ  
著者：藤原 正彦

面白い！。5ページ毎に「プッ」と吹き出し、10ページ毎に「フッフ」と笑い、20ページ毎に「ワッハッハ」と大笑いするような本である。本書は、数学者の米留体験のエッセイ。数学者が書くということ、堅いイメージを持つかもしれないが否。とにかく面白い。

日米の文化比較や大学の研究者、学生のことなど、内容は多岐に渡り分析も鋭い。著者は、アメリカの、日本にはない壮大な風景に美しさを感じながらも感動はしなかった。なぜか。

それは読んでみてください。